

## インフルエンザウイルスに対する入院前スクリーニング PCR 検査の有用性の検討

◎前田 望<sup>1)</sup>、山根 由美<sup>1)</sup>、黒田 誠<sup>1)</sup>  
鳥取県立厚生病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院では2021年12月より緊急入院患者に対して院内感染防止の目的で新型コロナウイルスのスクリーニング PCR 検査を開始した。その後2022年7月より予定入院を含めた入院前患者全例に対して検査を開始した。この時、緊急入院患者は短時間で結果が得られるロシュ社「遺伝子解析装置 cobas®Liat」とマルチプレックス PCR 試薬「SARS-Cov-2&FluA/B」を使用し、スクリーニング PCR を行うことになった。今回我々は、入院前スクリーニング PCR 検査でインフルエンザウイルスが検出された例を基に、インフルエンザウイルスに対する入院前スクリーニング PCR 検査の有用性について検討した。【対象】2023年5月～2023年11月の間に新型コロナウイルス入院前スクリーニング PCR 検査を行った緊急入院患者。【方法】対象患者のうち検査結果からインフルエンザウイルスが検出された症例について、抗原検査の実施状況、検査結果、症状について検討した。【結果】対象患者2875名中、入院前スクリーニング PCR 検査でのみインフルエンザウイルスが検出された患者は10名で、すべてA型であった。その

うち抗原検査未実施の患者が5名、症状があり抗原検査を実施したが陰性であった患者が5名であった。【考察】最初に PCR でのみインフルエンザが検出された5月～10月中旬頃は、鳥取県中部圏域ではインフルエンザの流行前であったため抗原検査が未実施であった患者からの検出が多く、流行期に入ってから抗原検査を実施したが陰性であった患者からの検出が認められた。入院前スクリーニング PCR 検査によりインフルエンザウイルスが検出された患者は、新型コロナウイルスが検出された患者同様に個室または感染症病室での管理となり、一般病室へのインフルエンザウイルスの持ち込みを防止することができた。【まとめ】インフルエンザの院内感染の発生は多数の発症者が出る事や、高齢者やハイリスク患者の重症化を招くこともあり対策が重要である。新型コロナの流行第9波とインフルエンザの流行が混在する時期に、入院前スクリーニング PCR 検査で新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスの両方を検出できたことは、院内感染防止に有用であった。  
連絡先 0858-22-8181